

元気と笑顔の卒業15周年

平成12年卒同期会

平成27年1月2日、秋田キャッスルホテルにて、平成12年卒業生の卒業15周年同期会を開催しました。

5年ぶりの同期会となった今回は7人の恩師と約60人の参加者でした。前回よりも少なめの参加者でしたが、久しぶりに会う仲間たちは皆変わらない元気と笑顔で盛会となり、有意義な時間を楽しみました。

同期会は今後も20周年、25周年と継続的に開催をしていきたいと思ひます。今回参加できなかった同期の皆様は是非次回の参加をお待ちしております。また5年後に元気な姿でお会いしましょう！楽しみにしております。

(浅村直人 記)



はとバス乗り都内名所巡り

卒業60周年首都圏30会

30会(昭和30年卒)首都圏の卒後60周年を記念しての会を3月12日開催。早春のお天気に恵まれた青空の下、遠路はるばる北海道、仙台からも参集し、33人が参加した。

昼食は帝国ホテルの豪華なバイキング会食、食後は貸切りのはとバスで評判の東京スカイツリーへ。天望デッキ経由450メートルの最上階、天望回廊へ待つことなく上がり、眼下の景色を心ゆくまで楽しんだ。また、先に天に召された同期の物故者の霊に手を合わせた。

帰りは予定から少し遅れて、改装なった東京駅を見学しながらの解散。参加者皆が、またの再会を約束しつつ、特別に仕入れたおみやげ用写真立てを胸に家路についた。

(堀 義顕 記)



菅江真澄の足跡に感銘

追分三叉路会

昨年10月18日、県立博物館学習室で平成26年度追分三叉路会総会を開催した。決算、次年度予算案などが原案どおり承認され、近藤隆氏(昭和33卒)を会長に選ぶなど新役員を選出した。

総会終了後、県立博物館特別展「菅江真澄、旅のまなざし」を見学、真澄の膨大な著作・絵図に圧倒された。

この後、講堂で読売新聞特別編集委員橋本五郎さん(昭和40卒)の特別講演会「五郎が語る真澄!」に耳を傾けた。話が真澄の文体に及び、司会者が五郎さんの文体について尋ねると、「簡潔にして心の温もりがこもった文体で書くことが永遠のテーマです」という答えが返ってきた。

旭町会館に移して行われた懇親会では、五郎さんを囲んで大いに酒を酌み交わし、「天上はらかに」を高らかに歌って東京に帰る五郎さんを空港へ送り出した。

(藤原正三 [昭和46卒] 記)



現役応援へ熱き思い

応援団OB紫紺の会

平成26年11月22日、協働大町ビルを会場に、忘年会と呼ぶには少々早い懇親会を開催しました。日中は樺台CCでゴルフコンペも開催。奇跡的な好天の下でプレーを楽しんだ8人を含む11人が出席しました。

川合厚彦会長(昭和41卒)の開会挨拶に続き、最年少の小澤浩之氏(昭和60卒)の乾杯で開宴。夏の甲子園予選で有志がスタンドに集結した際の感想から、現役応援団の力になりたいとの熱い思いを語り合い、和気あいの近況報告と記念撮影でお開きとなりました。

(保坂尚吾 [昭和55卒] 記)

